

## 那覇地方裁判所委員会（第30回）議事概要

### 1 開催日時

平成30年10月31日（水）午後2時から午後4時まで

### 2 場所

那覇地方裁判所大会議室

### 3 出席者（委員は五十音順，敬称略）

（委員）伊良皆進功，小那覇安剛，久保田光昭，剣持淳子，児玉陽介，柴田寿宏，  
玉城淳，中村昌樹，西里幸二，増田稔（委員長）

（説明者）那覇地方裁判所事務局会計課課長 檜垣和博，那覇地方裁判所事務局総務課課長補佐 島袋智昭

（参列者）事務局長，事務局次長，民事首席書記官，刑事首席書記官

（庶務）総務課長，総務課課長補佐，広報係

### 4 議事

#### (1) 委員の紹介

#### (2) 那覇地方・家庭裁判所石垣支部新庁舎の紹介

#### (3) 意見交換（テーマ：裁判所職員採用広報について）

意見交換に先立ち，職員採用広報に関する取組等について那覇地方裁判所事務局総務課課長補佐から説明を行った。

【意見交換】（●委員長，○学識経験者委員，◎法曹委員，◆裁判所）

- それでは，意見交換に入りたいと思います。採用広報の究極の目的は，質の高い人材の確保にあります。そのためには，採用試験の受験者数を増やす必要があるかと思えます。那覇地裁においては，ここ3年程受験者がやや減少傾向にあります。採用試験の受験者数を増やすためには，どのような採用広報活動を行えば効果的であるのか考えなければなりません。これには，どのような内容を伝えるのが効果的なのかという，採用広報の内容の面，どのような方法で伝えるのが効果的なのかという，採用広報の方

法（チャンネル）の面，という二つの論点が挙げられると思います。

まず，採用広報の内容面について，御意見を伺いたいと思います。

- 少なくとも沖縄の大学生は，地元で就職したいという気持ちの強い学生が多いと感じています。学生からすれば，裁判所に就職した場合に，県外への転勤の可能性もあるということで，受験を躊躇することもあるのではないかと思います。それから，公務員になりたいという動機で大学に入ってくる学生も多いようです。どうすれば公務員の中から裁判所を就職先として選んでもらえるか，という点を意識して広報活動をする必要があるのではないかと考えます。
- 先ほど採用広報の動画も見ていただきましたが，動画の感想でも結構ですし，裁判所の仕事の魅力の中で，一般の方に知られていないのではないかと感じるころはございますか。
- 動画は分かりやすい内容でした。ライフステージに応じた休暇等の制度があるという点も丁寧に説明しているので，学生にとって分かりやすいものになっていると感じました。私は以前，人事部で採用を担当しておりましたが，学生からの質問で多いものは，「転勤はありますか。」，「残業はありますか。」，「研修はありますか。」というものです。裁判所は研修が充実しているという紹介がありましたので，学生は安心できると思います。
- この動画は，学生が見たら裁判所に対して魅力を感じる内容になっていると思いました。動画の最後で触れていた「裁判所は人で成り立っている組織である。」ということを感じることが出来る内容でした。私の会社でも，若い社員を迎えるわけですが，就職前に事前の情報を得ていないと，入社後に不安を感じたり，思っていたのと違うと感じて早期に辞めてしまったりすることにも繋がりがねません。受験する前に，「こういう職場ですよ。」ということを知ってもらう機会を増やす必要があると考えます。そこで，沖縄独自の採用広報動画を作成してみてもどうでしょうか。また，裁判所の職員が学生と直に触れ合う機会を作っていくことも必要だと思います。顔の見える職場であるというこ

とを伝えていくことが大事であると思います。

- 私は日頃から裁判所書記官と接していて、お世話になっていますが、裁判所書記官の方々は相談もしやすく、能力も高いと感じております。私個人の経験では、学生時代に裁判所の仕事についての説明を受けたことはなく、裁判所書記官以外に、どのような職種の人が働いているのかを知りませんでした。学生時代に裁判所の仕事について説明を受けていれば良かったなと思います。
- これまで接してきた裁判所の職員は、皆さん話しくなくて良い人ばかりです。私も裁判所の仕事の内容が学生らに伝わっていないのではないかと思います。例えば、家庭裁判所調査官についてはもっとアピールをしても良いのではないのでしょうか。仕事の内容を知ってもらえれば、選択肢としても考えてもらえると思います。現在、私の職種もなり手が少なく、人手が足りない状況です。そこで私達は、中学生や高校生に対してもアピールを行っています。早い時期からアピールをすれば、将来なりたい職業を目標に持って、大学に行く学生も出てくるのではないのでしょうか。
- ◎ 裁判所という機関は認知度が高いですので、あえてアピールする必要はないのではないかと思います。法を司る立場として、裁判所が公務員を含む様々な職場の中でも、ホワイト企業中のホワイトであるということは、もっとアピールしてもよいのではないかと思います。それから、動画の中で紹介のあった、「チームとして働いている」という点も、もう少し伝えることが出来ればよいのではないかと思います。学生は大きなやりがいを感じると思います。そしてもう一つ、「司法全体が社会において担っている役割の重要性」と、「裁判所はその一翼を担っているのだ」という点もアピールしてほしいと思います。
- ◎ 私が率直に感じたところとしては、どのような仕事があるのかを把握しないまま公務員試験を受験している学生が多いのではないかと感じます。裁判所の場合も、裁判所の存在は知っていても、裁判所でどのような仕事があるのかについては、知らない学生が

多いのではないのでしょうか。裁判所にはどのような職種の人がいて、どのような仕事をしているのか、その魅力を伝えることが大事ではないかと感じました。また、裁判所のフェイスブックを見て、驚くとともに感心しました。若い人たちに向けて裁判所の存在とその魅力を発信するツールとして、大変良いと思いました。生き生きとしていて爽やかな、若い職員が前面に出ていることも、良い戦略であると感じました。

ある国家機関では、有名なドラマがテレビ放映され、それを見て志す学生が増えたということがあり、質の高い人材を集めるのに効果があると感じました。また、裁判所では、採用試験説明会や業務説明会も実施していることを知り、良い取組だと思いました。説明会等では人事担当の職員が色々と説明しているのだらうと思いますが、裁判所の魅力について、裁判官が説明会に参加するというのは難しいのでしょうか。

- ◆ 裁判官が大学や高校へ出向いて採用広報を実施したことはまだありませんが、学生が裁判傍聴をした際に、終了後、裁判所書記官と一緒に質疑応答に応じるということはしています。
- ◆ 専門学校生や高校生が裁判傍聴に来た際に、以前は、裁判員裁判の説明をする時間が長かったのですが、最近では、できるだけ良い人材に来てもらえるよう、裁判所の魅力を話すようにしています。例えば、先ほど他の委員から「ライフステージ」というお話があったように、裁判所は女性職員にとって、とても働きやすい職場であることを話しています。結婚、出産、子育てをしながら仕事を続けていくことを考えた時に、育児休業から復帰し、従前どおりの活躍をし、管理職として働く女性も見てきていますので、その点もアピールしています。また、私も、沖縄の学生は地元志向が強いと感じており、県外への転勤も多い裁判所は市役所や県庁と比較して、不利なのかなと感じているところですが、その分、仕事の内容が素晴らしいということを伝えなければと考えています。また、皆さんの御意見を伺って、チームとして働いているということ、司法自体の価値や理念を伝えることも大事であると感じました。今後は、より多くの学生に裁判所の魅

力を伝えるために、大学や専門学校に赴いて話すこともしていけたらいいなと思っています。

- 次に、採用広報の方法（チャンネル）の面について御意見をお伺いしたいと思います。
- フェイスブックを含め、若い人が日常的にどのような情報を受け止めているのかを調べるのが良いと思います。例えば、ジャーナリズムを志している学生はネット上にサークルを作り、情報交換を行っているようです。公務員についてもそのようなサークルがあるのではないのでしょうか。また、OBを使うのも有効だと思います。OBから後輩に職場のことを具体的に話してもらえると、説得力があるのではないのでしょうか。
- 那覇地裁独自の広報活動におけるグッズがあった方が良いのではないのでしょうか。私の会社も二年に一度、会社のパンフレットを作成していますが、新入社員を呼んで、紙面で座談会を行う等しています。また、入社して5年以内の若手職員に、働き甲斐について話してもらったりもしています。那覇地裁でも若い人が裁判所の魅力について語って、具体的な情報を提供していくのが大事であろうと思います。学生は生の情報を求めていると思います。冊子やSNS等の地道な作業をやってみてはどうでしょうか。学生は細かいところまでよく見ていると思います。
- 那覇地裁独自のパンフレットを作成することや出前講義を実施することも大事だと思いますが、職場を知ってもらうためにはやはり、インターンシップやエクスターンシップを実施するのが大事だと思います。民間企業ではインターンシップから就職へという流れがあるのはご存知のとおりだと思います。就職するためのインターンシップなのか、大学の授業としてのインターンシップなのか、方法や位置付けは色々考えられるでしょうが、インターンシップやエクスターンシップは強力な手段になると思います。
- 先ほどお話があったように、ドラマ等、テレビの影響は大きいと思います。学生が裁判所の仕事について知らないのが実情であろうと思いますので、知らせる必要があります。裁判所がパンフレットで、ワーク・ライフ・バランスという観点から、女性職員を

紹介している点は目立ちますし、更に女性をターゲットにしてもいいのではないのでしょうか。裁判所は待遇面がしっかりしているので、その点をもう少し目のつくところに出してみてもいかがでしょうか。

また、高校生くらいから、「こういう仕事があるよ」と伝えないといけないと思います。他の職場を、育児休業後、退職したような人の中でも、後々、裁判所に再就職する人もいないのでしょうか。能力のある人を掘り起こすことも考えていくとよいと思います。

- 私どもの業種では、高校生を対象にして、仕事を知ってもらう広報を実施したことがあります。高校生くらいの若い学生に対して、大学や高校を卒業した後、裁判所職員という選択肢もあるのだということをもっとアピールしても良いのではないのでしょうか。
- 大変貴重な御意見をありがとうございました。いただいた御意見を参考に検討させていただきます。より効果的な職員採用広報を実施していきたいと思っております。今後とも、御協力よろしくお願ひいたします。

### (3) 次回期日・テーマの確認

期 日 平成31年7月4日（木）午後2時

テーマ 追って指定する。